

滋賀県の地震

令和 5 年(2023 年)9 月

目 次

1 滋賀県の地震活動

(1)震央分布図	-----	1
(2)概況	-----	1
(3)断面図	-----	2
(4)滋賀県で震度1以上を観測した地震の表	-----	3
(5)滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布図	-----	3

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動

(1)震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図	-----	4
(2)概況	-----	4

3 地震一口メモ

鳥取地震から 80 年	-----	5
-------------	-------	---

「滋賀県の地震」は彦根地方気象台における地震業務の一環として、県下の皆様に県内の地震活動状況をお知らせするとともに、防災知識の普及に努め、皆様のお役に立てることを目的とし、毎月刊行しています。

「滋賀県の地震」は上記目次で構成し、適宜地震活動把握のための解説資料や用語解説等を掲載します。

本資料に関する問い合わせは「彦根地方気象台（電話 0749-22-6142）」をお願いします。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

滋賀県内の震度情報発表地点は彦根地方気象台ホームページに掲載しています。

<https://www.data.jma.go.jp/hikone/seismo/seismo.html>

本資料の震源要素及び震度データは、後日再調査の上修正されることがあります。

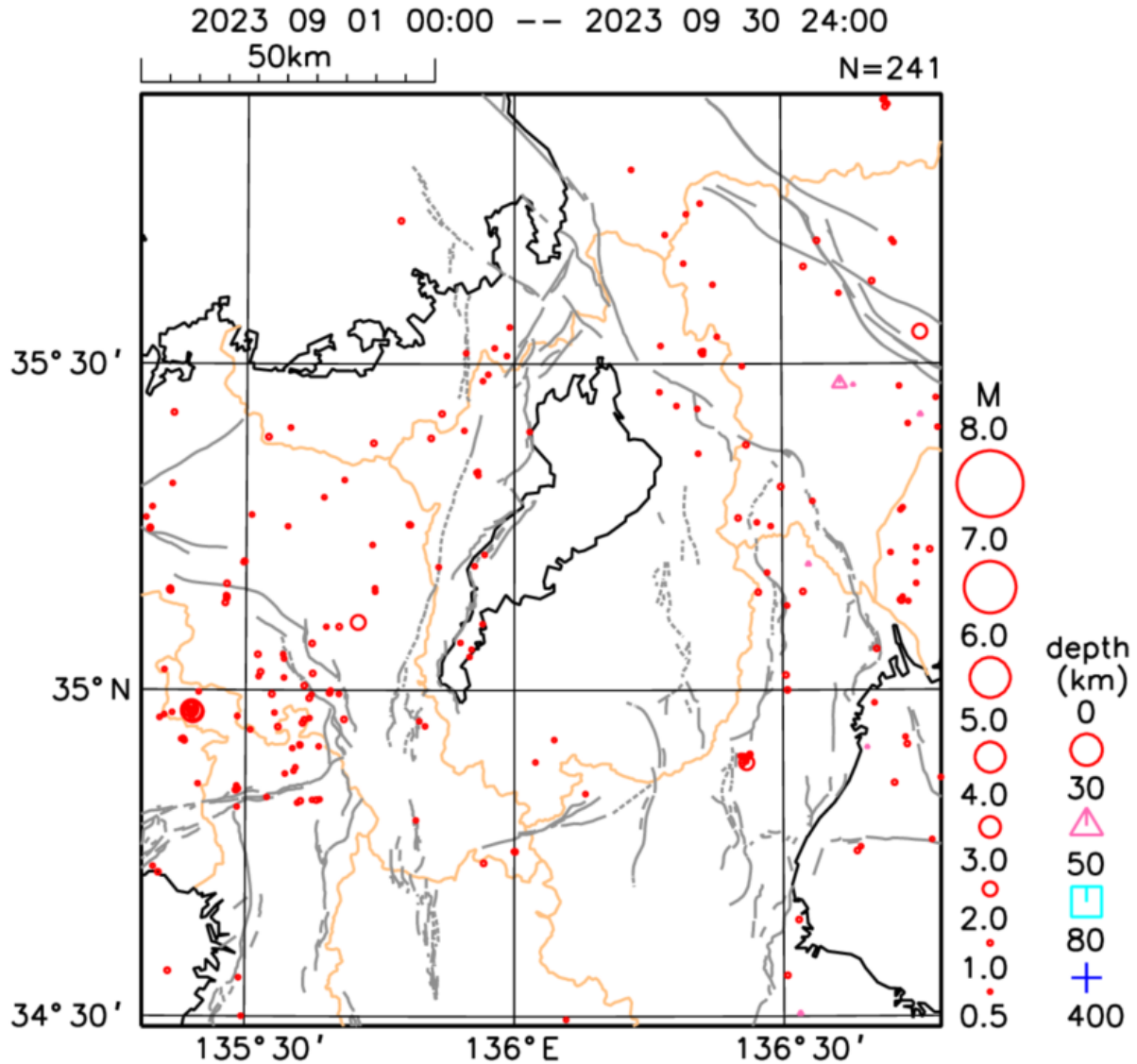
全国の地震火山活動概況、震源要素、震度データは気象庁ホームページに掲載しています。以下のアドレス「地震・津波・火山」からお知りになりたい項目をクリックしてください。

<https://www.jma.go.jp/jma/menu/menureport.html>

彦根地方気象台

1 滋賀県の地震活動(令和 5 年 9 月)

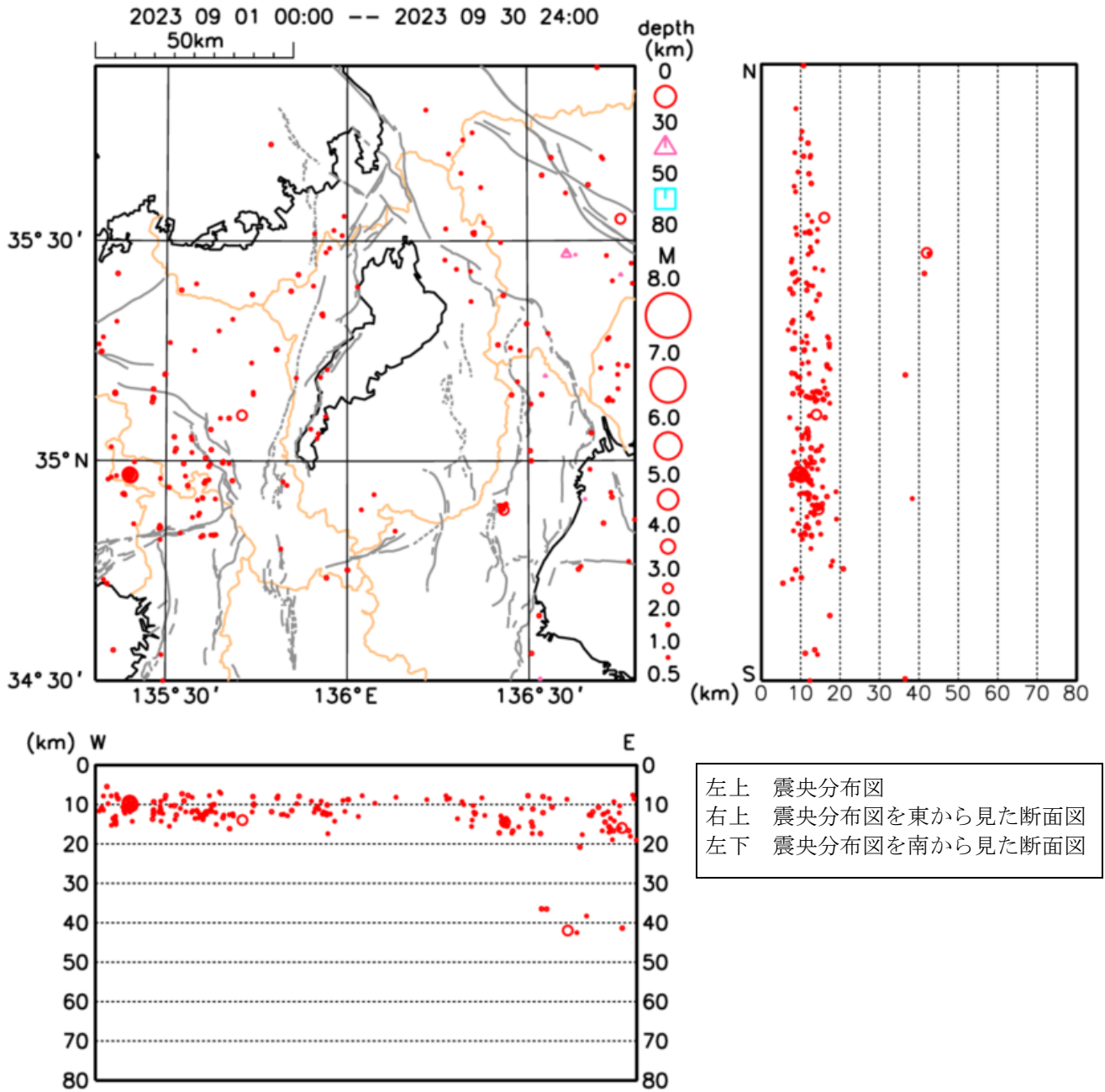
(1) 震央分布図



(2) 概況

9月に震央分布図内で震源決定できたM2.0以上の地震は7回(前月11回)でした。滋賀県内で震度1以上の揺れを観測した地震は0回(前月1回)でした。

(3) 断面図(深さ 80km までの地震)



【解説】

深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約 30km～約 60km に分布している地震は主として沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

(4) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の表

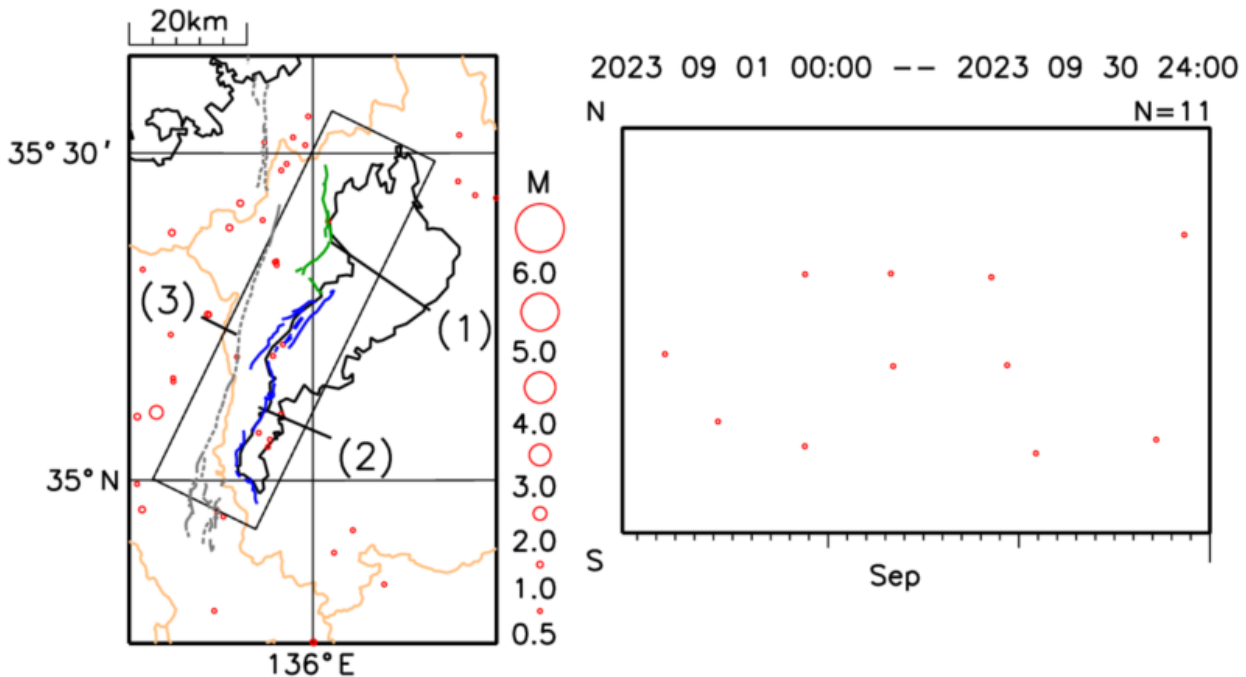
9 月に滋賀県内で震度 1 以上の揺れを観測した地震はありませんでした。

(5) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布

9 月に滋賀県内で震度 1 以上の揺れを観測した地震はありませんでした。

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動(令和 5 年 9 月)

(1) 震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図(深さ 30km までの地震)



(上) 震央分布図

深さ 30km 以浅の地震を表示。断層帯に沿った矩形領域内の地震の活動経過を右に表示。

図中の太線は、断層帯の概略位置。線種は活断層の存在の確実度（実線部＞破線部）を表す。

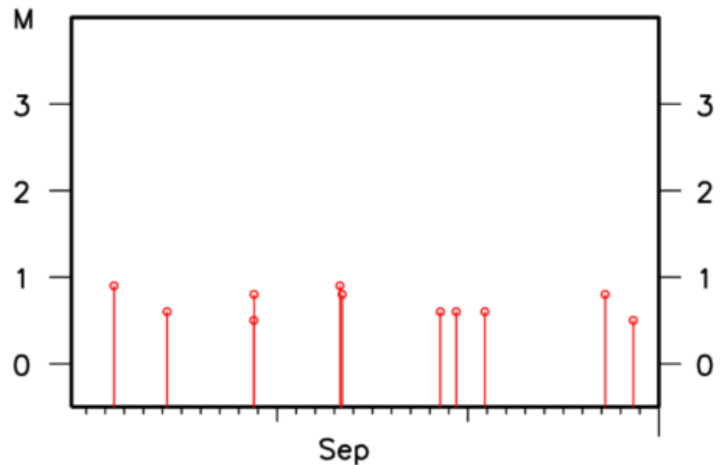
- (1) 琵琶湖西岸断層帯北部
- (2) 琵琶湖西岸断層帯南部
- (3) 三方・花折断層帯

(右上) 時空間分布図

震央分布図の矩形領域内の地震を南北の軸（縦軸）に投影し、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

(右下) 地震活動経過図（規模別）

震央分布図の矩形領域内の地震について、縦軸にマグニチュード、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。



琵琶湖西岸断層帯について

琵琶湖西岸断層帯は、滋賀県高島市（旧マキノ町）から大津市国分付近に至る断層帯です。全体として長さは約 59km で、北北東－南南西方向に延びており、断層の西側が東側に対して相対的に隆起する逆断層です。

琵琶湖西岸断層帯は、断層帯北部と南部の 2 つの区間に分かれて活動すると推定されますが、全体が 1 つの区間として活動する可能性もあります。

断層帯北部では M7.1 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内にそのような地震が発生する確率は 1～3% と推定されます。

断層帯南部では M7.5 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内にそのような地震が発生する確率はほぼ 0% と推定されます。

（地震調査研究推進本部の長期評価（2009）による。ただし、地震発生確率の算定基準日は 2023 年 1 月 1 日。）

(2) 概況

9 月に震央分布図中の矩形領域内で観測された M2.0 以上の地震は 0 回（前月 0 回）で、同領域内の地震で、震度 1 以上の揺れは観測されませんでした。

3 地震一口メモ

鳥取地震から 80 年

前回、関東大震災から 100 年の話題を紹介しましたが、80 年前の 1943 年（昭和 18 年）9 月 10 日には鳥取県東部を震源とする M7.2 の地震（鳥取地震）が発生しました。

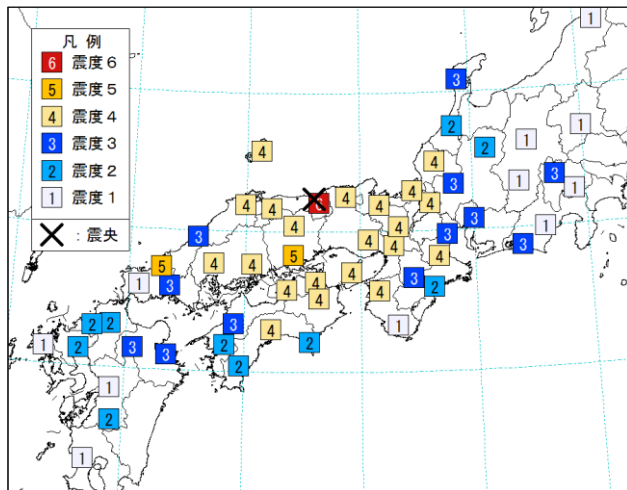
この地震は当時知られていなかった「鹿野－吉岡断層」が動いた事で発生し、被害は鳥取平野の地盤の弱い地域に集中し、多数の家屋が倒壊するなどして、死者 1000 人以上の災害となりました。

鳥取地震の翌年の 1944 年や 46 年には昭和の東南海地震 (M7.9)、南海地震 (M8.0) が発生していますが、この頃には陸のプレート内の活断層による地震も発生しており、鳥取地震の他には 45 年の三河地震 (M6.8) や 48 年の福井地震 (M7.1) など滋賀県周辺でも規模の大きな地震が発生しています。

過去の南海トラフ地震の発生においても、その前後に活断層による地震が発生している事例があり、1854 年の安政の東海・南海地震 (共に M8.4) の時にも同年に伊賀上野地震 (M7.2) が発生しています。

地震調査研究推進本部による長期評価では今後 30 年以内の南海トラフ地震の発生確率は 70～80% と高いことは良く知られていますが、南海トラフから離れた地域でも活断層による地震に注意が必要と考えられます。

突然発生する地震から身を守るために、屋内では家具の固定や安全スペースの確保など事前の対策をしてみてもはどうでしょうか。



鳥取地震での各地域の震度



鳥取市内で倒壊を免れたビル。手前は倒壊し火災に襲われた木造家屋の残骸（鳥取地方気象台 HP より）

鳥取地方気象台HP 「2023年は鳥取地震から80年！」 特集ページ

https://www.data.jma.go.jp/tottori/disaster/1943tottori_jishin/index.html

気象庁HP 地震から身を守るために

https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/jishin_bosai/index.html

大阪管区気象台HP 内陸地震に備える

<https://www.data.jma.go.jp/osaka/jishinkazan/nairiku.html>